

**オムロン株式会社 2021年度上期決算**  
**投資家様向けウェブ・電話説明会 質疑応答（サマリー）**  
**（2021年10月28日）**

**<全社業績、経営・戦略>**

Q：サプライチェーンの混乱はいつ頃から顕在化しているか？またどれくらい継続すると見ているか。

A：年初から影響はあったが、今年度に入ってからさらに難しい状況になったと感じている。

設計変更や調達拡大など試行錯誤しながら需要に応じているが、注残は積み上がっている。

今後も半導体不足の影響は長引くとみており、来期も同じような状況が継続するリスクを織り込んで事業計画を作っている。

**<制御機器事業 関連>**

Q：テックマン社への出資によって、今後何がかわるのか？

A：これまでは、OEM調達してオムロンが販売するに留まっていたが、今回の提携強化により、

互いの技術を持ち寄って、次世代型協調ロボットの開発を進めることになった。

ロボット統合コントローラと組み合わせることで、まだ実現できていない新しいソリューションを提供できるようになる。

Q：高機能PLCの採用社数は今後も伸びていくのか？

A：高機能PLCを核としたソリューション型営業の成果には手ごたえを感じている。

今年度は、需要の急激な高まりを受けて、革新アプリケーション採用客先への供給を最優先していることもあり、

採用社数が前年から伸びていないように見えている。今後採用社数はまだまだ増やしていけると考えている。

Q：今後も、1Q・2Qと同水準の売上や営業利益率が継続すると考えてよいのか？

A：来年度の計画についてはまだお伝えできないが、堅調な需要は続くと考えている。

**<ヘルスケア事業 関連>**

Q：遠隔診療サービスの2025年、利用者100万人目標に向けた取り組みは順調に進捗しているか？

A：国ごとに進捗が異なり、計画に対してはビハインドしているが、目標達成に向けてチャレンジしている。

米国では医療機関への導入は進んでいるが、利用者数の伸びが鈍化しており、医師へのサポート体制を強化していく。

一方、インドは、利用者数が順調に増加している。

Q：前年のコロナ需要からの反動減はあるか？

A：血圧計は、コロナによって需要が一段引き上がっており、反動減はない。

体温計は、反動減を織り込み、売上を前年の約7割程度と見通している。